

次年度の共催案件の 取組方針について

令和6年2月1日

経済産業省 中部経済産業局
(中部地域半導体人材育成等連絡協議会 事務局)

【参考①】各地方における人材育成の取組について

※第3回協議会 資料3より抜粋

- 半導体産業を支え、その将来を担う人材の育成・確保に向けては、産業界、教育機関、行政の個々の取組に加えて、**産学官が連携しながら、地域単位での取組**を促進することが必要。すでに6地域で取組を開始。
- 更に、我が国において次世代半導体の設計・製造基盤の確立を図るべく、LSTCを中心として、半導体の設計・製造を担う**プロフェッショナル・グローバル人材の育成**を目指す。

地域単位の取組 ※令和5年6月までに、6つの地域で、産学官連携による取組を開始

九州半導体人材育成等 コンソーシアム

- (産) ソニー、JASMなど
(学) 九州大、熊本大、佐世保高専など
(官) 九州経済産業局、熊本県など
✓ 今後、魅力発信コンテンツ作り、教育・産業界、海外との連携強化等を検討。

東北半導体・エレクトロニクス デザイン研究会

- (産) キオクシア岩手など
(学) 東北大、一関高専など
(官) 東北経済産業局、岩手県など
✓ 今後、企業訪問、PR動画作成等、半導体産業の魅力発信に向けた取組を検討。

中国地域半導体関連産業 振興協議会

- (産) マイクロンなど
(学) 広島大、岡山大、呉高専など
(官) 中国経済産業局、広島県など
✓ 今後、半導体関連スキルマップの作成やワークショップの実施等を検討。

中部地域半導体人材育成等 連絡協議会

- (産) キオクシアなど
(学) 名古屋大、岐阜高専など
(官) 中部経済産業局、三重県など
✓ 今後、工場見学会、インターンシップ、特別講義等を検討。

北海道半導体人材育成等 推進協議会

- (産) ヲピダスなど
(学) 北海道大、旭川高専など
(官) 北海道経済産業局、北海道など
✓ 今後、ロードマップの作成、各機関の取組内容の可視化等を検討。

関東半導体人材育成 連絡会議

- (産) ルネサスなど
(学) 茨城大、長岡高専など
(官) 関東経済産業局、茨城県など
✓ 今後、魅力発信イベント、人材育成ニーズの見える化等を検討。

産業界の取組

- ✓ JEITAによる出前授業、工場見学、高専カリキュラム策定への貢献等

教育機関の取組

- ✓ 高専における半導体カリキュラムの実施、大学での研究開発を通じた人材育成等

国の取組

- ✓ 成長分野の国際競争力を支える、デジタル人材育成推進協議会の実施等

研究機関（LSTC）の取組

更に

- ✓ 2020年代後半に次世代半導体の設計・製造基盤の確立に向けて、これらを担うプロフェッショナル・グローバル人材育成を目指す

【参考②】各地方における具体的な取組項目について（※各地方経済局HP等より作成）

※リンク先は各コンソ等HP

地域	人材確保		人材育成	その他（サプライチェーン強靱化など）
【北海道】 設立:R5.6 機関数：53 (12/6時点)	●人材育成・確保のロードマップ作成 産学へのヒアリングを人材ニーズと教育カリキュラムの適合性確認・調整等 ●各機関の取組内容可視化、産学を繋ぐアクションの実行 実務家教員派遣、工場見学、インターンシップ 等			●道内半導体関連企業へのヒアリング調査、 サプライチェーンマップの作成 ●取引拡大方策の検討
【東北】 設立:R4.6 機関数：94 (12/11時点)	●オープンセミナー ●企業視察ツアー ●座学(オンデマンド、技術講演等) ●実習(東北大試作コインランドリ) ●インターンシップ	●企業視察ツアー（再掲） ●(若年層向け)魅力発信動画の作成・配信 ●(高校～大学生向け)企業 PR パンフ作成・配布 ●自治体イベント等における理解促進活動	●半導体設備のパフォーマンス維持対策 ●企業・幹部間の交流 ●地元調達の促進（調達ニーズのマッチング） ●企業集積等のDB化 ●関連技術研究の推進 （開発ニーズ・研究シーズのマッチング）	
【関東】 設立:R5.6 機関数：22 (12/11時点)	●人材教育 ▶設計エンジニア…AIチップ設計拠点（東大・産総研）を用いた設計教育の実施検討 ▶製造エンジニア…ミニマルファブ（産総研）を用いた製造工程教育	●魅力発信 地域の産学官連携の強化を通じて、 企業ツアー・工場見学・出前講義などを提供	●ピッチ会など販路開拓機会の提供 （中小・ベンチャー企業のマッピングを基に）	
	●調査事業（必要学生数・人材の推定）			
【中国】 設立:R4.10 機関数：130 (12/18時点)	●人材育成プログラムの試行・検証 公開講座として学生・社会人が受講	●効果的なPR手法の試行・検証 インターンシップ、出前講座の実施	●半導体関連産業集積マップの見直し・拡充 ●半導体産業技術交流会 デバイスメーカーの技術ニーズに、地域企業がシーズ提案 ●ワークショップの実施 ロードマップ・産業集積デザイン等を作成	
【九州】 設立:R4.3 機関数：97 (12/20時点)	●半導体人材の育成・裾野拡大（理系人材） 出前講義・教員向け企業研究会の継続実施・横展開、横断的学習コンテンツの試作・評価、 産学連携による“グローバル・プロフェッショナル人材（トップ人材）”の育成 ●若年層（小・中学生）や保護者を対象とした半導体産業の魅力発信 ●調査事業（教育機関などの人材輩出側への調査）			
				●企業間連携の深化（域内）と拡大（域外） ワークショップ（テーマ：BCP/ 物資安定供給）、SIIQ会員との 企業間交流会の開催、九州域外企業との連携・マッチング支援 ●新たなビジネスモデル構築支援 ●グローバルサプライチェーンへの対応支援 カーボンニュートラル、サイバーセキュリティに焦点を当てたセ ミナーや勉強会の開催

今後の共催案件の取組方針案について

- 本年度、試行的に実施して得られた結果や感触等を踏まえ、以下の取組を想定。

合同業界説明会（セミナー）について

①オンライン形式 ▶ R6FYの方針：継続実施

<考え方>

- ・オンライン形式は、エリアを問わず広く学生に参加可能な利点あり。これを活かし、継続実施を検討。
 - ・時期については、各社で実施する夏期／冬期インターンシップ等への接続を加味し、6月・11月の2回実施を想定。
 - ・内容については、ガイダンス（政策動向紹介等）、各社説明に加えて、テーマを設定した座談会等を想定。
- ※テーマ例：研究開発の動向（高学年・院生向け等）、若手技術者プレゼン、半導体関係学部別の面談会 など

実施に当たっては
要議論・精査

②対面形式 ▶ R6FYの方針：教育機関が実施する合同業界説明会等に参加した学生を、 半導体関係企業が実施する魅力発信イベント等に誘導する取組にシフト

<考え方>

- ・対面形式は、顔を合わせた会話に利点があるが、昨年の実施結果を踏まえると、集客や実施上の経費等を踏まえたコストパフォーマンス等が課題。
- ・また、各教育機関においては、これまでも合同業界説明会等が開催されており、その場に当該校に所属する学生は多く参加している状況。
- ・よって次年度は、学内等で合同業界説明会等の開催を希望する教育機関と、企業の間で適宜調整いただき、実施いただくことでどうか。
- ・事務局では、合同業界説明会等の機会を捉え、各企業が開催する魅力発信イベント等の情報を集約し、学生への発信を検討。（※次頁参照）

人材育成プログラムについて

R6FYの方針：参加教育機関等における適宜の活用、継続した内容の見直し・拡充

<考え方>

- ・4月頃を目処に教材を作成し、試行実施。内容のフィードバックを受けつつ、適宜既存教材を教育に活用いただくとともに、アップデートを検討。

【参考】企業が実施する魅力発信イベント等への誘導について（他地域事例）

- 北海道半導体人材育成等推進協議会では、東北地域での取組を参考に、以下の対応案を検討中。

<https://www.joho-iwate.or.jp/nedo>

インターンシップのマッチング促進／プログラム強化（案）

各社のインターンシップに関する現状

- 【実施時期】 夏休みが大半
- 【期 間】 1週間程度が多い（最短1日、最長2週間程度）
- 【課 題】 ①期待する応募人数が得られない企業が複数ある
②採用に繋げている企業とそうでない企業に分かれている

対応案①：マッチング促進

- 協議会としてインターンシップ募集企業の実施情報を事前に集約し、参画校へ周知することで、学生の応募を促進
- 年度内に2024年夏休み実施分の意向調査、規模や内容確認を行い、効果的な周知方法を検討

対応案②：プログラムの充実

- 企業の魅力を伝えられるようなインターンシッププログラムの充実化に一定のニーズがあると考えられる。ニーズを有する企業をモデルに設定し専門家派遣による助言等を行うなどのサポートを実施し、効果を検証。
(ニーズ有無はインターン実施予定企業に随時確認)

SEMICONDUCTOR-RELATED COMPANIES IN TOHOKU
東北半導体関連企業
生協・春期インターンシップ生 募集開始
Recruitment of Internship Students
世界で活躍する半導体。東北は半導体関連企業の一大会場です。未来の社会を作る・支える半導体。多くの企業があなたを待っています。是非、現地で素晴らしい半導体の学びを。
実施時期 2023年12月～2024年3月頃
旅費・宿泊費等補助あり(詳細はリンクを確認ください。)
参加者 企業が多数にあり、自分に合う仕事が見つかるように感じたり、実際に企業を訪ねて、大学での研究とつなげたりしたい。そして夢に叶えたい。企業の実情にもすぐ答えたい。
参加申し込みは右下のQRコードからお願います。
事務局：東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会
(東北経済産業局 製造産業・情報産業課内)

オンライン時代
インターンシップ
プログラム
株式会社クオリティ・オブ・ライフ
社会貢献部



～東北地域の例～

- 画像上) 情報集約し協議会として学生への周知活動実施
- 画像下) インターンシップ実施企業向けに、準備事項、プログラム組成の注意点を動画で解説(アーカイブ配信中)

https://www.tohoku.meti.go.jp/s_monozukuri/topics/230315.html

本日、ご意見をいただきたいポイント

- 今後の取組方針の検討に当たり、以下の点についてご意見をいただきたい。

【①試行的に実施した共催案件（合同業界説明会）の取組方針について】 ※本資料P3参照

- 今回、試行的に実施した合同業界説明会について、どんな点が成果／課題であったと考えるか。（産）
- 自走化を意識した、効率的・効果的な取組とすることが重要であるが、教育機関が実施する合同業界説明会から半導体関係企業が実施するイベント等への誘導を図る取組は妥当と考えられるか。（産・学）

【②その他、協議会において共催として取り組むべき事項について】

- 他局での取組状況やアンケート結果等を踏まえ、合同業界説明会の開催、人材育成プログラムの検討・作成のほか、協議会の取組趣旨（「半導体産業に関心を持つ学生の増加」、「半導体産業への人材輩出の拡大につながる環境の形成」）に資するような実施すべき人材育成等に関する取組はないか。
（※参加機関及び事務局がともに取り組む共催の事業として実施する取組に限る＝参加機関自身における活動を前提とする）
-

【③協議会の取組（学生を対象とした人材育成） 以外のニーズについて】

- 本協議会の取組の範囲外であるが、中部地域の半導体産業の活性化に向けた取組ニーズ等があれば、今後の検討のため、その内容及び行政への要望（期待する役割）等について、ご意見をいただきたい。

【参考：これまでに協議会参加機関からご提案等があった内容】

- ・人材育成や業界PRだけでなく「産学連携のプラットフォーム」としての協議会の活用（≡半導体関連の研究室との連携の深化） **＝技術開発**
- ・教員等を対象とした人材交流（派遣・出向）の実施 **＝教員育成**
- ・実習等を目的とした教育機関保有の実験施設・クリーンルーム等の有効活用 **＝リカレント教育、ファブレス企業との連携促進等**